

共通取組 重点取組	平成 27 年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学力を定着させ、それを活用する力をつけさせる。 ・家庭学習を含めて学習習慣をさらに定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の多くが、本校の基礎的、基本的な学力を定着させる授業に満足していることが、生徒へのアンケート結果などからわかる。 しかし、職員は定着がまだ不十分であると考えている。 ○今後も生徒の学習意欲が高まる協働的な学習を進め、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る学習方法や家庭学習の定着を目指すような課題設定を工夫していく。 	A B C D
2 豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育のあらゆる場面で生徒に自己有用感を感じさせる機会を多く作り、自尊感情を育成する。 ・生徒どうしがお互いを認め合い 高め合えるような人権感覚を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に自己有用感を感じさせる機会が多くつくられており、保護者からも高い評価を得られていることがアンケート結果などからわかる。 ○より多くの生徒が、さらに質的にも量的にも高い自己有用感を感じられるよう、今後も意図的に機会を創出していきたい。 	A B C D
3 健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携を深め、健康的な生活習慣の確立を図る教育をさらに推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA 保健学習会では、食育講座を開催し、多くの保護者に参加してもらい、保護者との連携を深める活動となった。 ○学校保健委員会では、早寝早起きをテーマに、全校生徒が話し合い、よりよい生活習慣の確立を目指す取り組みになった。 	A B C D
4 教育課程学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・朝・帰りの学習と小テストの形式を統一し、学習習慣の定着を図る。 ・小集団の協働的学習を実践し、アクティブ・ラーニングを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習用の寛中学習ドリルと、帰り学習用ステップアップテストを各教科で作成し、実施することにより、学習習慣の定着を図った。 ○グループ学習を各教科で取り入れ、研究授業やVTR等により職員研修を行った。今後も授業の質を高められるアクティブ・ラーニングを推進していく。 	A B C D
5 児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的資料に基づく生徒指導の共通理解をさらに図り、全職員一体となった生徒指導を進める。 ・生徒の内面を理解・受容しながら、生徒の成長を援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的資料に基づいた生徒指導の共通理解を行った。また生徒理解のための職員研修などを行い、職員の共通理解を図った。 ○生徒の内面を理解・受容しながら生徒指導を行った。さらに生徒理解を深めて生徒指導を行い、生徒の成長を援助していく。 	A B C D
6 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を学校教育に活用するために、教職員が率先して地域との関わりを深める。 ・学校HPや学校だより等の内容をさらに工夫するなど、学校からの情報発信力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校便りの内容を充実させ、継続的かつ定期的な発信をおこなって学校の様子を地域の方に知ってもらうことができた。また、各行事などに多くの方が見学・参加してくれた。 ○懇話会、地区懇談会などで、子どもたちのために、地域、家庭、学校ができることを、意見交換し、教育活動に生かすことができた。 ○改訂した学校HPで、地域や保護者に、学校の様子をより知ってもらうため、旅行行事や大きな行事ごとに映像を含めた情報の更新することが出来た。 	A B C D
7 人材育成 組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員がお互いの授業を見合い、また研究授業を通して、授業力のさらなる向上を図る。 ・職員どうしの連携を深化し協働を進め、職員のチーム力を高めていく。 ・ミドルリーダーがリーダーシップを発揮し、組織的・機動的な教職員組織を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年に数回、研究授業とそれに関する協議会を行い、授業の進め方について研修を深めることができた。協議の内容も具体的な発言が多く、それ以後の教科指導に役立ったと思われる。しかし、全教員が授業を公開するまでには至っていない。来年度は全教員が年に一度公開授業を行うように心掛けていきたい。 ○生徒に関する情報や、学習指導、学級経営について職員同士が気軽に話すことができていく。そのことを通じて、職員全員で協力して指導に当たっていて、結果チーム力が高まっている。 ○ミドルリーダーがそれぞれの担当部門で、職員に働きかけを行っていて、着実に組織的・機動的な教職員組織ができつつある。 	A B C D
小中一貫教育推進 ブロック内 相互評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ○「9年間を見通した基礎学力の向上と基本的生活習慣力を培う小中連携・協働のあり方」をテーマとして、実践的な交流の点検・見直しを推進し、取組をより充実することが出来た。子供達が夢中になる学び合いをめざした学区内小学校の授業研究会を参観することによって、グループ学習の有用性などを確認し、授業改善にも生かすことができた。 ○児童生徒間の関わりは小中交流の行事を通して充実しており、また、職員間の連携は管理職を始め、児童支援専任、生徒指導専任・教務主任を中心におおむね良好である、より多くの職員が連携に関わることでできる環境を整えていきたい。 		
学校関係者 評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価結果はおおむね妥当な内容であった。 ○学校だよりは、写真も多くわかりやすい。地域が学校のことを知る重要な役割を担っているので、発行時期も工夫し、さらに充実させてほしい。 ○教員は、生徒をよく理解し、問題の早期発見や解決だけでなく、集団としても質の高い生徒を育ててほしい。 		
評価結果に対する 学校の見解	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な内容の確実な定着とその活用を図る学習方法について、実効性のある実践を続けていく。 ○PTA を中心とした保護者や他機関との連携を深め、健康的な生活習慣の確立を図る教育をさらに推進する。 ○学校便りや学校ホームページ等を活用し、情報発信に努めていく。 ○生徒理解や指導方法については、研修を生徒の実態に合わせ充実させていきたい。 		
学校経営 中期目標 達成状況	<p>中期目標が設定された最終年度として、「豊かな心」「健やかな体」においては保護者との連携も図り、十分成果がみられた。生徒指導では、生徒の内面の理解がさらに必要であると考え、高い目標を設定した。教職員が意味をよく理解しながら、常に実効性のある取組を続けていく必要がある。</p> <p>「確かな学力」に関しては、協働的な学習と学校独自ドリルを使った取組などをさらに充実させ、基礎的・基本的な学力の定着と、学習習慣の定着を進めていきたい。</p>		